

[広報] 最上小国川流水型ダム 完成後の状況について

令和5年6月1日発行

最上小国川流水型ダムは、一級河川最上小国川の上流に建設された堤高41m、堤長143mからなる重力式コンクリートダムです。

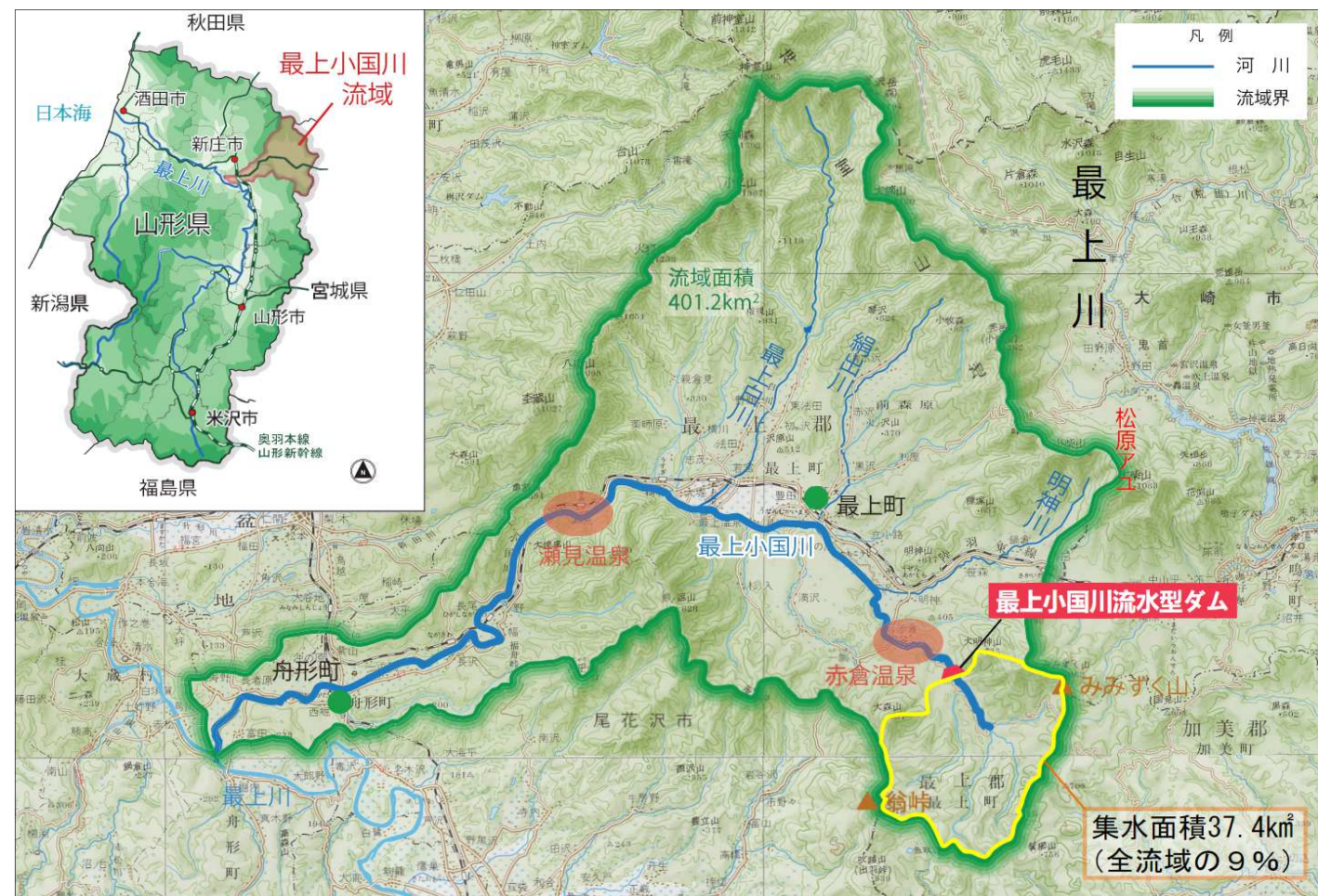
平成20年にダム建設事業として国の採択を受け、平成26年度よりダム本体工事に着手、令和元年度にダム竣工を迎え、令和2年より運用を開始しました。ダムの形式は全国で5例目となる流水型のダムであり、洪水調節専用のダムです。通常時はダムには水を貯めないため、普通の川の状態が維持され、環境にやさしいダムとされています。

ダム完成後も環境のモニタリングを継続して行っており、令和4年までの状況についてお知らせいたします。(本紙の裏面をご覧ください)

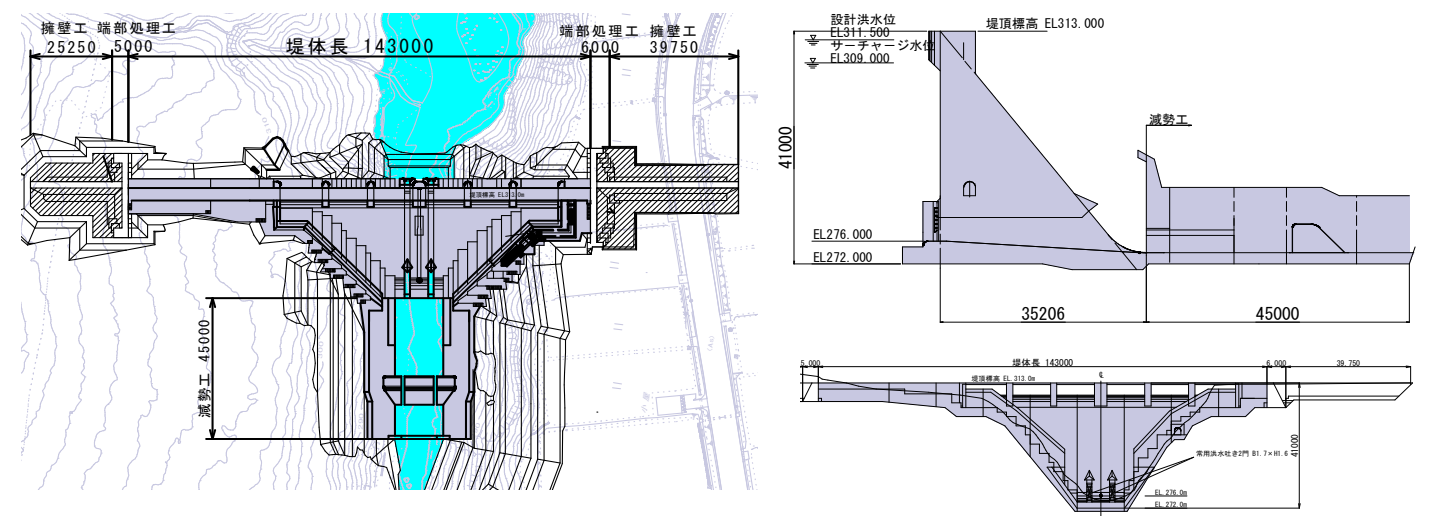
※環境調査の詳細については山形県ホームページで公表しております。ダムにはダムカードの申し込みや、山形県全域を巡るダムスタンプなどもございますので、ぜひ一度ダムまで足をお運びください。

【お問合せ先】最上総合支庁建設部河川砂防課 (0233-29-1413)

【位置図】

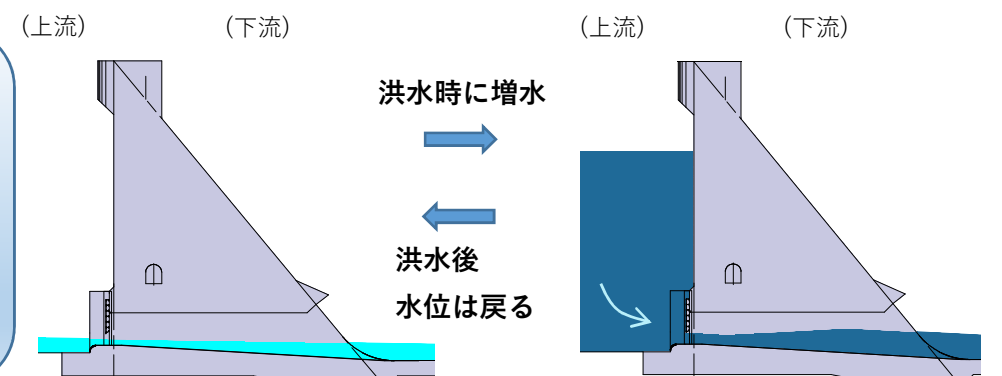


【ダム構造図】



【ダム機能（洪水調節）】

通常時は水を貯めず、洪水時に水量が増加すると一時的に水が貯まり、下流河川の増水を抑えて洪水被害を軽減します。洪水が収まると通常時の状態に戻ります。



【ダム景観】

ダム正面



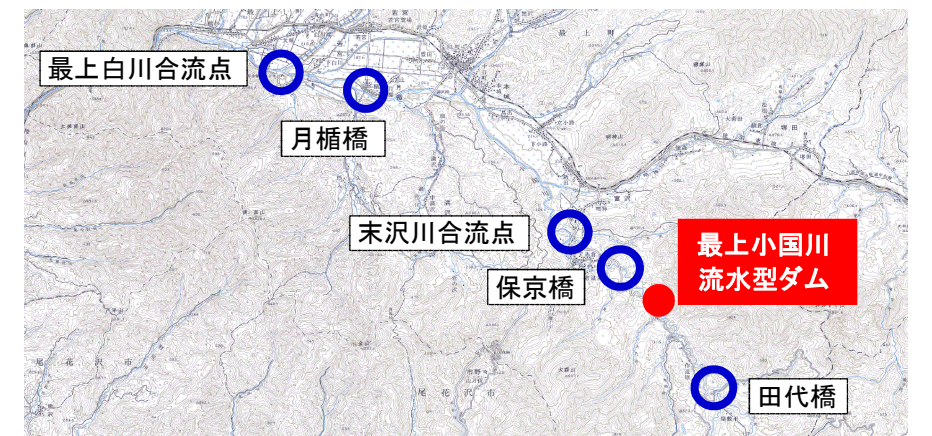
ダム背面



【環境モニタリング】

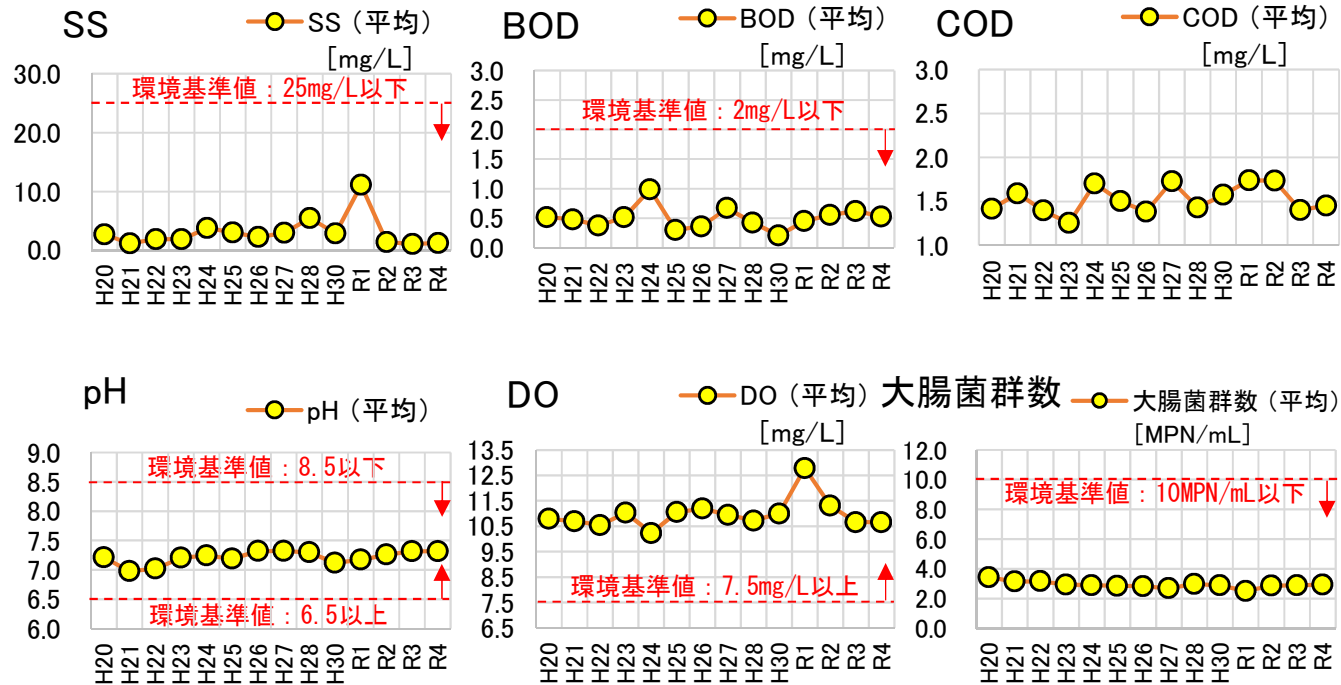
以下の地点で環境のモニタリングを行っています。

- ・水質調査〔保京橋、末沢川合流点、月楯橋〕、濁度調査〔保京橋〕
- ・魚類、付着藻類、河床状況調査〔田代橋、末沢川合流点、最上白川合流点〕



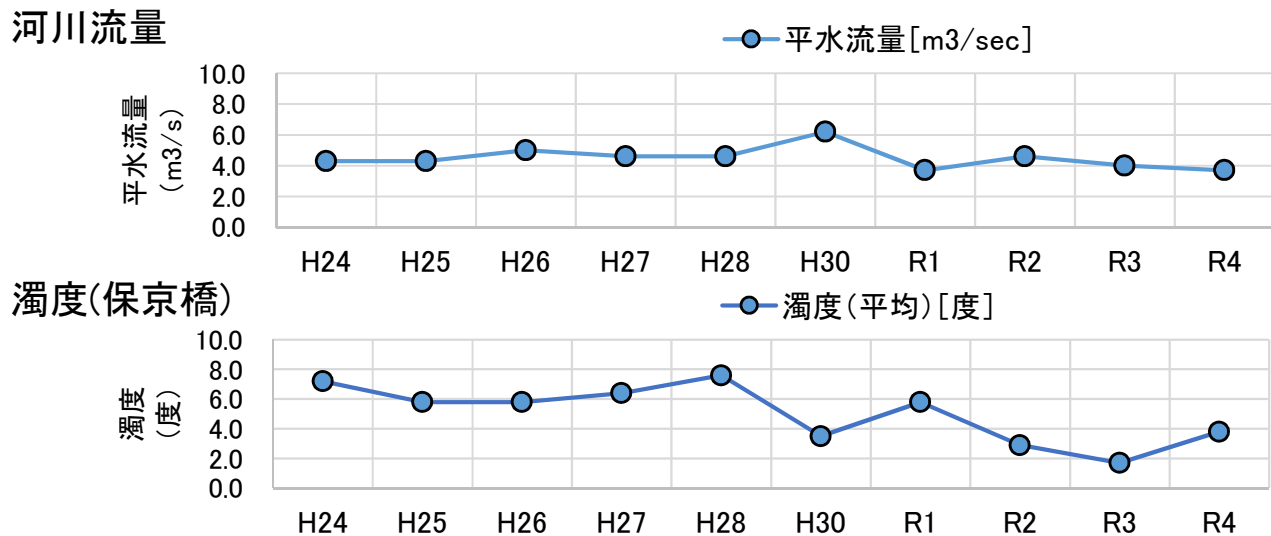
水質調査

- 水質は環境基準に基づく全調査項目で基準値に収まり、良好な水質状況を確認しています。
- 調査は、SS（水の濁り）、BOD・COD（水質）、pH（水の性質）、DO（酸素量）、大腸菌群数（細菌）などを実施しています。



河川流量・濁度調査

- 年間を通して河川の流量、濁度（濁り）を観測しています。降雨量による変動はありますが河川の流量は安定し、河川の濁りも、1年を通してきれいな状態が維持されています。（濁度10以下は透きとおっている状況です。）



河川の状況

- 最上小国川では、カジカ、ウグイ、アユ、アブラハヤ、フクドジョウが多く確認されています。特にカジカとウグイが、例年、優占しています。
- 令和3年度よりフクドジョウが多く確認されており、山形県内の他の河川と同じ増加の傾向が確認されています。

各年の優先確認種 (H27~)

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
第1位	カジカ	アブラハヤ	ウグイ	ウグイ	カジカ	カジカ	カジカ	カジカ
第2位	ウグイ	ウグイ	カジカ	アブラハヤ	ウグイ	ウグイ	フクドジョウ	フクドジョウ
第3位	アユ	カジカ	アユ	カジカ	アブラハヤ	アユ	ウグイ	ウグイ



カジカ ウグイ アブラハヤ アユ フクドジョウ

- アユの餌となる河床の石に付着する藻類の調査を行っており、最上小国川ではアユの代表的な餌である藍藻類が優占している状況を確認しています。
- 河床について、はまり石が多く、また、大きい石が少ないと漁獲不漁となる傾向がありますが、最上小国川では、経年の調査で大きい石はやや少ない傾向がある一方、はまり石は少なく、浮き石が優占する傾向を確認しています。

